

# VOTOTOI ノート

市井外喜子

Vototoi ヲトトイ（一昨日）一昨日

Vototoi ヲトトイ（おととひ）年上と年下の二人の兄弟

Vototoi ヲトトイ（おととひ）二人の兄弟または姉妹

『日葡辞書』（邦訳日葡辞書 土井忠生・森田武・長南実編訳 岩波書店）には、上記の Vototoi がみられる。この Vototoi を最初に、天草版平家・古典平家（国会本・高野本・龍大本）によって確認したい。使用した『平家物語』は、次のものである。

- 天草版平家『天草版平家物語対照本文及び総索引』江口正弘著 明治書院
  - 国会本 新潮日本古典集成『平家物語』国立国会図書館蔵百二十句本 新潮社
  - 高野本 新日本古典文学大系『平家物語』東京大学国語研究室蔵本 岩波書店
  - 龍大本 日本古典文学大系『平家物語』龍谷大学図書館本 岩波書店
- さらに方言辞典・言語地図をも援用し、Vototoi 周辺部の報告を記したい。

使用した方言辞典・言語地図は、次のものである。

- 『日本方言大辞典』徳川宗賢監修 小学館
- 『現代日本語方言大辞典』平山輝男編集代表 明治書院
- 『全国方言辞典』東条操編 東京堂出版
- 『日本語方言辞書——昭和・平成の生活語——』藤原与一著 東京堂出版
- 『日本言語地図』国立国語研究所 大蔵省印刷局

## I Vototoi・おととい

天草版平家には7例の Vototoi がみられる。この7例の Vototoi が、古典平家ではどのように対応するのかをみる。

天草版平家の Vototoi は、次の2ヵ所にみられる。

- 巻第二第一 祇王清盛に愛せられたこと：同じく仏という白拍子に思いかえられてのち、親子三人尼になり、世を厭うたこと、またその仏も尼になったこと（1例）
- 巻第四第八 大手生田の森の合戦のこと：同じく鶴越を落され、越中前司が討死のこと（6例）

卷第二第一（古典平家：祇王）では、姉妹を、卷第四第八（古典平家：二度之懸）では、兄弟の意をうけもつ Vototoi である。

(1) 姉妹の Vototoi

卷第二第一の冒頭、右馬の允に促されて喜一検校は、次のように語り出す。  
 喜. 長いことなれども、申さうず。清盛わこのやうに天下を掌に握られたによつて、世間の謗をもはばかりらず、人の嘲りをもかえりみいで、不思議なことのみをせられてござる。例えば、そのころ都に聞えた白拍子の上手に祇王、祇女という Vototoi のものがござったが、とちという白拍子が娘であった。

国会本（卷泰一第五句 義王）では、次のようである。

入道相国かやうに天下をたなごころににぎり給ふあひだ、世のそしりをもはばかり給はず、不思議のことをのみし給へり。たとへば、そのころ京中に白拍子の上手、義王、義女とておとといあり。これはとちといふ白拍子のむすめなり。古典平家数種の「おととい」を、表1としてまとめて示す。

表1

高野本	祇王・祇女とておとといあり
龍大本	祇王祇女とておとといあり
葉子十行本	妓王妓女とておととひあり
八坂本	義王義女とておとどい有
鎌倉本	義王義女トテヲトヒ有
小城本	義王義女トテヲトドイ有
竹柏園本	義王義女トテ兄弟有
屋代本	義王義女トテ兄弟有リ
斯道文庫本	義王義女トテ <sup>キヤウ</sup> 兄弟アリ

『日葡辞書』記述にあるように、Vototoi=おととい（仮名表記）が、姉妹の意を持つことは明白である。また「兄弟」が男女の区別なく、女性の姉妹にも用いられる諸本も注目される。

一方延慶本（読み本系）義王義女之事には、「おととい」が現われない。

其比都ニ白拍子二人アリ。姉ヲバ義王、妹ヲバ義女トゾ申ケル。天下第一ノ女ニテゾ有ケル。此レハ閉ト云シ白拍子ガ娘ナリ。

古典平家諸本間には「おととい」の有無、表記上の差異等がみられるが、大方において天草版平家との類似性をみることができる。Vototoi は、姉妹の意を持つ。

## (2) 兄弟の Vototoi

範頼が率いる一谷大手の生田の森で、河原太郎・次郎の兄弟が、高名をたてようとして兄弟二人で敵陣へ突入するが、真名辺兄弟に討たれるという、当時の合戦に参加した下層武士の像を描き出している巻第四第八 大手生田の森の合戦のこと：同じく鶴越を落され、越中前司が討死のことに Vototoi 6 例が出現する。(国会本：第87句梶原二度の駆、高野本・龍大本：巻第九二度之懸)

天草版平家の Vototoi を、出現順に記してみる。

右馬の允に冒頭「して生田の森の方にわなんとあったぞ？」と促されて、喜一検校が語り出す。

- ①大手生田の森にわ範頼その勢五万余騎で卯の刻の矢合せと定められたれば、まだ寄せられなんだ。その手に武蔵の国の住人河原太郎・河原次郎と言うて、Vototoi あったが (267頁23行)
- ② (次郎→太郎) くちをしいことを宣うものかな！ ただ Vototoi あらうずるものが、(268<sub>8</sub>)
- ③まだ暗かったれば、鎧の毛もさだかに見分けぬに、河原太郎 Vototoi 立ち並うで、仮名実名を名のり、(268<sub>21</sub>)
- ④そのものどもをしばしをいて愛せよと申すところに、河原 Vototoi 立ち並うで、さしつめひきつめさんざんに射る：(269<sub>3</sub>)
- ⑤真名辺が郎等二人打物の鞘をはづいて、河原 Vototoi が首をとっていった。(269<sub>19</sub>)
- ⑥(梶原平三) あら無漸や！ これわ私の党のとのばらが不覚でこそこの Vototoi をば討たせたれ！ (269<sub>24</sub>)

Vototoi 6 例は、河原太郎・次郎の男兄弟をひきうけている。

国会本(梶原二度の駆)では、次のようである。

- ①その手に、武蔵の国の住人、河原の太郎、河原の次郎とて兄弟あり。<sup>おとどい</sup>
- ②「口惜しきことをのたまふものかな。ただ兄弟<sup>おとどい</sup>あらんずるものが、
- ③いまだ暗かりければ、鎧の毛もさだかに見えわかず、河原太郎兄弟<sup>おとどい</sup>、立ち並うで名のりけるは、
- ④河原兄弟<sup>おとどい</sup>、立ち並びて、さしつめ、引きつめ、散々に射る。
- ⑤真鍋が郎等二人、打物の鞘をはづいて出で、河原兄弟<sup>おとどい</sup>が首を取ってぞ入りにける。
- ⑥「あな、無漸や、これは、私の党の殿ばらが不覚にてこそ、河原兄弟<sup>おとどい</sup>は討たせたれ。

上記のように天草版 Vototoi に対して、国会本はすべて兄弟<sup>おとどい</sup>と対応している。高野本・龍大本の「おとどい」を加えて、表2として示す。

表 2

	天草版	国会本	高野本	龍大本
267 <sub>23</sub>	Vototoi	おとどい 兄弟		
268 <sub>8</sub>	Vototoi	おとどい 兄弟		
21	Vototoi	おとどい 兄弟	兄弟	きやうだい 兄弟
269 <sub>3</sub>	Vototoi	おとどい 兄弟	兄弟	きやうだい 兄弟
19	Vototoi	おとどい 兄弟	兄弟	きやうだい 兄弟
24	Vototoi	おとどい 兄弟	おとゝい	おとゝい
269 <sub>9</sub>	qiödai	おとどい きやない 兄弟	おとゝい	おとゝい
21			おとゝい	おとゝい

この表には天草版平家を核とした Vototoi の他に、古典平家（高野本・龍大本）を柱とした「おとどい（269<sub>9, 21</sub>）」も記してある。

高野本・龍大本からの「おとどい」を、高野本により示すとともに、対応する天草版・国会本を記す。

- 西国に聞えたるつよ弓・精兵、備中国住人真名辺四郎、真名辺五郎とておとゝひあり。

天草版 備中の住人真名辺の四郎、五郎と言うて、強弓の精兵 qiödai あったが、

国会本 備中の国の住人、真鍋の四郎、真鍋の五郎とて、強弓の精兵<sup>きやうだい</sup>兄弟あり。

- 其時、下人ども、「河原殿おとゝい、只今城の内へまっさきかけて討たれ給ひぬるぞや」とよばゝりければ、

天草版 河原が下人ども河原殿わはや城のうちえ入って討たれさせられたと  
呼ばわったれば

国会本 河原が下人ども、「河原殿は、はや城のうちへ入りて、討たれさせ  
給ひて候」と呼ばはりければ、

天草版・国会本においては、267<sub>23</sub>に、河原太郎、河原次郎と言うて、Vototoi（<sup>おとどい</sup>兄弟）あったが、と登場以来、この兄弟は Vototoi（<sup>おとどい</sup>兄弟）と記されている。

天草版・国会本ともに qiödai（<sup>きやうだい</sup>兄弟）として記されるのは、真名辺四郎・五郎に対してである。両兄弟の描写場面において、混乱が生じない。一方高野本・龍大本においては、真名辺四郎・五郎に対しては「おとゝい」であるが、河原太郎・次郎には「兄弟」・「おとゝい」の表記があり、文体差がみられる。

なお「延慶本」源氏三草山并一谷追落事にみられる両兄弟の表記をあげておく。

- 武蔵国住人和私ニ河原太郎高直、同次郎盛直兄弟二騎馳来テ、
- 城中ヨリ備中国住人、真鍋ノ四郎五郎トテ<sup>おとどい</sup>兄弟有ケルガ、

「おととい」・「兄弟」の表記から注目されるのは、仮名表記の「おとゝい」と、「兄弟」に対する振り仮名である。兄弟・兄弟おととい きやうだいの振り仮名により、読みの区別を明示している。

ここに表2からの観察結果を箇条書きに、まとめておく。

1. 天草版・国会本は一致している。Vototoi = 兄弟おととい、qiōdai = 兄弟きやうだい、また高野本・龍大本「おとゝい」に対して、269<sub>21</sub>例のように天草版が対応を持たない時は、国会本も同じく対応を示さない。
2. 高野本・龍大本は一致している。Vototoi に対応する「おととい」はともに1例のみであり、他は Vototoi = 兄弟きやうだいである。qiōdai = おとゝい、高野本・龍大本のみにみられる「おとゝい」等が注目される。
3. 表記上の特徴が注目される。祇王姉妹の場合は古典平家3本同じく「おとゝい」と仮名書きである。「二度之懸」では、高野本・龍大本の「おととい」は仮名書きであるが、国会本は「兄弟」のように振り仮名がある。また「兄弟」・兄弟きやうだいのように振り仮名による読みの区別が厳しい。

先の例では qiōdai が1例(269<sub>9</sub>)しかみられなかったが、天草版平家の qiōdai の出現様子をもておきたい。qiōdai tachi を含めると8例みられる。古典平家の様子とともに表3として示す。

表3

	天草版	国会本	高野本	龍大本	章段名(国会本)
186 <sub>2</sub>	qiōdai tachi	兄弟	兄弟	兄弟 <small>きやうだい</small>	69句 維盛都落ち
190 <sub>13</sub>	qiōdai	兄弟	兄弟	兄弟 <small>きやうだい</small>	70句 平家一門都落ち
213 <sub>11</sub>	qiōdai				78句 瀬尾最後
269 <sub>9</sub>	qiōdai	兄弟 <small>きやうだい</small>	おとゝい	おとゝい	87句 梶原二度の駆
318 <sub>3</sub>	qiōdai	兄弟			97句 維盛出家
379 <sub>2</sub>	qiōdai	兄弟			116句 堀川夜討
24	qiōdai				(右馬の允 注)
389 <sub>19</sub>	qiōdai	兄弟			118句 六代

注：右馬 さてついにわ qiōdai のを仲はなんとなつたぞ？(天草版特有の雑談形式 箇所のため、古典平家には比較すべき箇所がない。)

表3において4本ともに qiōdai = 兄弟がみられる186<sub>2</sub>・190<sub>13</sub>を、天草版・高野本からみておくことにしたい。

- ・ さうするところえ五人の qiōdai tachi が門の内えうち入って(巻第三第七 維盛の落ちらるれば、北の方をはじめ、子たちの維盛を慕われたこと)

高野本 さる程に、御弟新三位中将資盛卿・左中将清経・同少将有盛・丹後侍従忠房・備中守師盛、兄弟五騎、乗ながら門のうちへ打入り、(巻第七 維盛都落)

。小松殿の子たちわ qiödai その人数六七百ばかりで淀のあたりで御幸に追いつかれた。(巻第三第八 平家の一門わ都を落ちらるるそのうちに池の大納言殿わ都にとどまられたこと：同じく福原を立たるとて、一門の人々名残を惜しまれたこと)

高野本 さる程に、小松殿の君達は、三位中将維盛卿をはじめ奉て、兄弟六人、其勢千騎ばかりにて、淀の六田河原にて行幸に追ツつき奉る。(巻第七 一門都落)

この天草版平家・古典平家ともに qiödai=兄弟とある場面には、登場人物の身分が関与している。

(3) 一昨日の「おととい」

天草版・国会本には iffacujit・「一昨日」<sup>いつさくじつ</sup> はみられるが、一昨日の意を持つ「おととい」がみられない。一方高野本・龍大本では「おととい」はみられるが、「一昨日」をみることができない。天草版に出現する4例の iffacujit を、古典平家とともに表4として示す。

表4

	天草版	国会本	高野本	龍大本	章段名(国会本)
116 <sub>4</sub>	yfsacujit	<sup>いつさくじつ</sup> 一昨日	おとゝひ	おとゝひ	34句 競
150 <sub>19</sub>	yffacujit	一昨日	昨日	昨日	48句 富士川
340 <sub>2</sub>	iffacujit	<sup>いつさくじつ</sup> 一昨日	<sup>をととひ</sup> 一昨日	<sup>をととひ</sup> 一昨日	103句 讒言梶原
375 <sub>4</sub>	iffacujit	<sup>いつさくじつ</sup> 一昨日			116句 堀川夜討

116<sub>4</sub>例を代表としてとりあげ、4本の様子を示す。

。いや、その馬わ yfsacujit までわあったものをと申せば、(巻第二第三 三位入道の嫡子仲綱馬ゆえに面目を失われたによって、この恥をすすがうずるとて、謀叛ををこされたこと：ならびに競が宗盛をたばかって主の恥をすすいだこと)

国会本 「あはれ、その馬は<sup>いつさくじつ</sup>一昨日までありつるものを」と申す。

高野本 「あッぱれ其馬は、おとゝひまでは候し物を」

龍大本 「あッぱれ、其馬はおとゝひまでは候し物を」

また「延慶本」においても iffacujit はみられない。二・三の例を示す。

- 昨日きのふ、一昨日をととひ、軍ノ物語ヲゾ初ケル。(三浦ノ人々兵衛佐ニ尋合奉事)
- 一昨日をととひ親ノタメニ最後ノ仏事仕シ間、昨日きのふノ由伊浜ノ兵具ゾロヘニハヅレ候テ、(梶原与佐々木馬所望事)
- 一昨日をととひ大路ニテ見マヒラセ候シガ、哀ニ悲ク覚候。(重衛卿内裏ヨリ迎女房事)

和語系列の「おととい」高野本・龍大本に対して、漢語系列の「iffacujit・一昨日いつさくしつ」天草版・国会本の対立が鮮明である。ここにおいても「一昨日おと、ひ」のように、振り仮名による読みの区別の厳しさをみることができる。

## II おととい（兄弟・姉妹：一昨日）

これまで天草版平家・古典平家（国会本・高野本・龍大本）にみにられる Vototoi（姉妹・兄弟・一昨日）をみてきた。これからは方言辞典および言語地図にみられる「おととい」・「OTOTOI」をみていくことにする。

### (1) 『日本方言大辞典』

『日本方言大辞典』（徳川宗賢監修 小学館）の「おととい」には①兄弟・姉妹 ②一昨日の2義が載っている。この語義を担う県（都市等は略し、県単位とする）をまとめ、表5として示す。

表5

『日本方言大辞典』 おととい	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京
①兄弟・姉妹													
②一昨日		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

	神奈川	新潟	山梨	長野	静岡	愛知	岐阜	富山	石川	福井	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山
①											○	○			○	○	○
②		○		○	○		○				○						

	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
①	○	○	○	○		○	○	○	○								
②		○										○	○		○	○	○

ここで2義をもつ県の分布特徴をみておくことにする。日本列島の両端に②一昨日が分布し、日本列島中央部（近畿・中国・四国）に①兄弟・姉妹が分布している。両語義の分布領域がそれぞれに占有地域を示していることが注目される。①・②両義がともにみられるのは、三重・島根両県のみである。両県の様子は、次の通りである。

### 三重県

①兄弟・姉妹：おととい 三重県伊賀（大日本国誌 内務省地理局）おとて 三重県志摩郡（三重県方言資料集 北岡四良）

②一昨日：おとて 三重県度会郡（地方方言集 度会郡教育会）

### 島根県

①兄弟・姉妹：おとだい 島根県大田市（島根県に於ける方言の分布 島根県女子師範学校編）おとで 島根県出雲（同上）

②一昨日：おと一ち 島根県隠岐島（島根県方言辞典 広戸惇・矢富熊一郎）

さらに『全国方言辞典』（東条操編 東京堂出版）の「おとどい：兄弟」からは、日本列島中央部の分布領域の確かさをみることができる。「おととい」の2義は、周圏分布（ABA型分布）をなしている。

## （2）『現代日本語方言大辞典』

『現代日本語方言大辞典』（平山輝男編集代表 明治書院）からは、「おととい：一昨日」および「きょうだい：兄弟・姉妹」をみることにする。

まず、「おととい：一昨日」をまとめ、表6として示す。

表6

『現代日本語方言大辞典』 おととい（一昨日）	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京
①オトトイ類	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②オトツイ類													



	神奈川	新潟	山梨	長野	静岡	愛知	岐阜	富山	石川	福井	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山
①	○	○	○	○	○	○		○	○	○			○				
②							○				○	○	○	○	○	○	○

	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
①	○					○			○	○	○		○	○	○	○	○
②	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○					

このオトトイ類とオトツイ類の1音異なる分布模様は、圏分布をなしている。日本列島両端の諸県ではオトトイ類が、列島中央部（近畿・中国・四国）ではオトツイ類がそれぞれに領域を占めている。

「きょうだい：兄弟・姉妹」の分布は、次の通りである。表7として示す。

表7

『現代日本語方言大辞典』 きょうだい（兄弟・姉妹）	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京
①キョーダイ類	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②オトドイ類													

	神奈川	新潟	山梨	長野	静岡	愛知	岐阜	富山	石川	福井	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山
①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②																	

	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
①	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
②	○	○	○	○		○											

この表7から注目されるのは、圧倒的な分布力を持つキョーダイ類に対して、中国・四国5県（鳥取・島根・岡山・広島・徳島）のオトドイ類である。

5県の様子を抽出しておく。

鳥取県

オトドイ 昔からの言い方。よく言う。

キョーダイ 兄弟、姉妹、兄妹など、すべてに言う。

島根県

オトデ 兄弟・姉妹を言う。

キョーダエ

広島県

オトドイ ①兄弟の総称 ②父母を同じくする兄弟

岡山県

キョーデー 血縁の男兄弟だけをオトデーと言って区別することもある。女姉妹はオナゴキョーダイ

徳島県

オトドイ

『日本語方言辞書——昭和・平成の生活語——』（藤原与一著 東京堂出版）の「オトトイ」記述を載せておく。

◦オトトイ 兄弟 三重県伊賀南部 オトトイチューノヤシテナー。（兄弟のことを）オトトイと言うのだよねえ。老女→藤原 オトドイとの言い方が、よくおこなわれてきたであろう。

ここで兄弟の「オトトイ」をまとめておきたい。A=『日本語方言大辞典』①兄弟・姉妹、B=『現代日本語方言大辞典』きょうだい：オトドイ類、C=『日本語方言辞書』オトトイ、D=『全国方言辞典』おとどいとして表8として示す。

表8

兄弟=オトトイ類	三 重	滋 賀	京 都	大 阪	兵 庫	奈 良	和 歌 山	鳥 取	島 根	岡 山	広 島	山 口	徳 島	香 川	愛 媛	高 知
A	○	○			○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
B								○	○	○	○		○			
C	○															
D					○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
A+B+C+D	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

4種類の方言辞典に、兄弟=オトトイ類として分布を示すのは近畿・中国・四国（京都・大阪2県を除く）である。確実にその分布領域は狭くなってきているが、中国地方の諸県では、残存が期待できそうである。

### (3) 『日本言語地図』

『日本言語地図』（国立国語研究所、1966～74）には、日にち呼称に関する言語地図が、12面ある。そのうちの1面、276図おとといについて、みていくことにしたい。

276図おととい（一昨日）は、なぞなぞ式質問：きのうの前の日のことは何と言いますか。によって得られた全国の被調査者回答を示したものである。

全国被調査者が回答した結果は、紺色の OTOTOI 類（OTOTOI、OTOTOOI、OTOTOE、～：15語形）、OTOCUI 類（OTOCUI、OTOCYU、OTOCUE、～：30語形）、UCUCUI 類（UCUCUI、UCUCEI、UCICII、～：12語形）、BUTUTUI 類（BUTUTUI、BUDUDUI、BUTUTI、～：11語形）および赤色の OTOTOINA 類（OTOTOINA、OTOTOENA、OTOTENA、～：15語形）として整理され鮮明な分布領域を示している。また KINOOOTOTOI を代表とする種々の語形を含む紺色グループ（11語形）、その他も印されている。紺色の線状符号（OTOTOI 類）と球状符号（OTOCUI 類）の対立とともに、赤色の OTOTOINA 類の鼎立分布が276図おとといの特色といえる。

最初に276図おとといの使用率を表9として示す。

表 9

276図 おととい %	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京
①OTOTOI 類	77	48	84	78	25	35	93	97	100	89	100	96	74
②OTOCUI 類	17							3		1		4	12
③UCUCUI 類													
④BUCUCUI 類													
⑤OTOTOINA 類	3	52	16	22	75	65	7			9			
⑥KINOOOTOTOI～	3									1			
⑦その他													

	神奈川	新潟	山梨	長野	静岡	愛知	岐阜	富山	石川	福井	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山
①	80	52	95	55	67	57	56	97	95	48	13	16	6	3	27		13
②	20	9	5	12	33	43	44	3	5	50	86	84	94	97	73	100	87
③																	
④																	
⑤		36		33													
⑥		1								2	1						
⑦		2															

	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
①	10	6	21	24	22	3	9	17	10	60	65	92	90	68	29	60	
②	90	94	77	76	78	97	91	83	90	35	30	8	10	32	71	14	
③																26	57
④																	40
⑤																	
⑥			2							5	5						2
⑦																	1

この使用率表から観察される第1点は、見出し語形 OTOTOI 類が全国的にみられるものの、近畿・中国・四国ブロックでは使用率が低いということである。したがってこの3ブロックでは OTOCUI 類の高使用率が注目される。第2点は OTOTOINA 類が北海道・東北6県および群馬・新潟・長野3県へつながりを見せることである。東日本側にのみ分布し、それも日本海側の諸県において、使用率が高いことである。

このような「おととい」を、相関関数で示し(表10)、尺度にかえ、意味するところを囲んでみる(表11)。

尺度の内訳を示しておく。

1 .00~±.20 ほとんど相関がない

- 2 ±.20～±.40 低い相関がある  
 3 ±.40～±.70 かなり相関がある  
 4 ±.70～±1.00 高い相関がある

表10

276図 おととい	北海道	東北	関東	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
北海道											
東北	.801										
関東	.986	.831									
甲信越	.880	.983	.885								
東海	.910	.606	.834	.742							
北陸	.999	.783	.983	.867	.920						
近畿	.330	-.004	.176	.166	.689	.351					
中国	.254	-.070	.098	.098	.630	.276	.997				
四国	.161	-.149	.002	.014	.553	.183	.985	.995			
九州	.979	.715	.943	.821	.965	.985	.485	.415	.327		
沖縄	-.352	-.395	-.273	-.443	-.399	-.333	-.348	-.328	-.301	-.303	

表11

276図 おととい	北海道	東北	関東	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
北海道		4	4	4	4	4	2	2	1	4	2
東北	4		4	4	3	4	1	1	1	4	2
関東	4	4		4	4	4	1	1	1	4	2
甲信越	4	4	4		4	4	1	1	1	4	3
東海	4	3	4	4		4	3	3	3	4	2
北陸	4	4	4	4	4		2	2	1	4	2
近畿	2	1	1	1	3	2		4	4	3	2
中国	2	1	1	1	3	2	4		4	3	2
四国	1	1	1	1	3	1	4	4		2	2
九州	4	4	4	4	4	4	3	3	2		2
沖縄	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	

この相関係数表の意味するところは、276図おととい（一昨日）は周圏分布を示しているということである。近畿・中国・四国3ブロックが相互に高い相関を持つ尺度4を示し、OTOCUI類使用の均質性をみせている。OTOTOI類は、この3ブロックを除くブロック間において尺度4のつながりをみせている。この7

ブロック相互間において尺度3となるのは、東北—東海間だけである。北海道—東北—関東—甲信越—東海—北陸と OTOTOI 類が連続し、近畿—中国—四国と3ブロック間では OTOCUI 類が勢力を持ち、九州ブロックではまた OTOTOI 類が出現するという ABA 型の周圏模様をみせている。また東北ブロックが持つ OTOTINA 類の位置からみると276図おととい（一昨日）は、東北非東北対立型の分布を示すことになる。詳述はここでは省略する。

A = 『日本方言大辞典』、B = 『現代日本語方言大辞典』、E = 『日本言語地図』の「兄弟・姉妹」・「一昨日」の分布を重ねてみる。大方の様子をみるためにブロック単位による有無を示す。『日本言語地図』の○印は、50%を基準とし、表12として示す。

表12

おととい	北海道	東北	関東	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州
A { 兄弟・姉妹 一昨日		○	○	○	○	○	○	○	○	○
一昨日 B { オトトイ類 オトツイ類	○	○	○	○	○	○				○
B 兄弟・姉妹								○	○	
E { OTOTOI 類 OTOCUI 類	○	○	○	○	○	○		○	○	○

方言辞典・言語地図を重ねてみると、「おととい」の2義①兄弟・姉妹、②一昨日の分布領域は、相補的であり共存していることがわかる。その分布領域区分は、①兄弟・姉妹は、(近畿)・中国・四国ブロックに、②一昨日は、北海道・東北・関東・甲信越・東海・北陸・九州ブロックである。意味区分・分布領域ともに衝突をおこさない周圏分布をなしている。『日葡辞書』・『平家物語』にみられる兄弟・姉妹の「おととい」(天草版・古典)、一昨日の「おととい」(高野本・龍大本)は、現在まで脈々として受け継がれていることがわかる。簡略化した表13によって、この結果を示しておく。

表13

おととい	北海道	東北	関東	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	平家物語
兄弟・姉妹							○	○	○		天草版・古典
一昨日	○	○	○	○	○	○				○	高野本・龍大本

### Ⅲ まとめ

これまで述べてきたことの要点を、個条書きにしてまとめておく。視点は『日葡辞書』にみらる VOTOTOI の語義（一昨日；年上と年下の二人の兄弟；二人の兄弟または姉妹）を核として、天草版平家・古典平家（国会本・高野本・龍大本）における吟味および現在使用される全国版の方言辞典・言語地図との比較にある。

- 1 姉妹の Vototoi は、天草版平家・古典平家ともにみられる。「祇王」章段にのみみられる。古典平家では「おととい」と、仮名表記である。竹柏園本・斯道文庫本・屋代本には、「義王義女トテ兄弟有」がみられる。男女の区別なく用いられる「兄弟」がある。
- 2 兄弟の Vototoi は、「二度之懸」章段にあらわれる。天草版平家と国会本（百二十句本）の類似性が注目される。Vototoi = 兄弟<sup>おととい</sup>、qiödae = 兄弟<sup>きやうだい</sup>のように、振り仮名が厳しく付され、読みの区別がはっきりと示されている。一方、高野本・龍大本（覚一本）の類似性が注目される。兄弟<sup>きやうだい</sup>・おとゝいの用例間の似通いが大きい。古典平家3本ともに Vototoi と共通する箇所は、1カ所のみである。

姉妹の Vototoi は「祇王」章段に、兄弟の Vototoi は「二度之懸」章段にと、Vototoi は限られた章段にのみ出現しているのが注目される。一方 qiö dai は、69句維盛都落ち 70句平家一門都落ち 97句維盛出家 116句堀川夜討 118句六代と、出現範囲が広い。

- 3 一昨日の意の「おととい」は、高野本・龍大本（覚一本）にのみ、みられる。一方天草版と国会本（百二十句本）では、iffacujit<sup>いっさくじつ</sup>・一昨日である。和語系「おととい」の高野本・龍大本に対して、漢語系「iffacujit」の天草版・国会本が注目される。日にち呼称の対立が、諸本間にみられる。一昨日、一昨日のように、振り仮名による読みの区別が、厳しい。
- 4 『日本方言大辞典』・『現代日本語方言大辞典』等により、「おととい」の2義①兄弟・姉妹 ②一昨日の分布領域が鮮明に区分されていること、またオトトイ類・オトツイ類のように1音の異なりが「一昨日」の周圏分布を示すことをみた。方言辞典を数種重ねてみると、兄弟・姉妹の「おととい」は、近畿・中国・四国3ブロックにみられるが、中国ブロック以外での衰退が激しい。
- 5 『日本言語地図』276図おととい（一昨日）は、周圏分布をなすことを相関係数からみた。近畿・中国・四国3ブロックの OTOCUI 類を核にして、両外側に OTOTOI 類が分布している。方言辞典類の「おととい」=兄弟・姉妹の分布と重ねあわせると、2義「おととい」の相補的分布を確かめることができる。

①兄弟・姉妹は、(近畿)・中国・四国ブロックに、②一昨日は北海道・東北・関東・甲信越・東海・北陸および九州7ブロックに広く分布を示す。

6 日葡辞書・平家物語に出現する Vototoi=①兄弟・姉妹 ②一昨日を、方言辞典・言語地図により、現在における位置の確かさを確認した。

#### 参考図書

- 天草版平家物語対照本文及び総索引 江口正弘 明治書院  
平家物語 新潮日本古典集成 新潮社  
平家物語 新日本古典文学大系 岩波書店  
平家物語 日本古典文学大系 岩波書店  
邦訳日葡辞書 土井忠生・森田武・長南実編訳 岩波書店  
時代別国語大辞典 室町時代編 三省堂  
日本方言大辞典 徳川宗賢監修 小学館  
現代日本語方言大辞典 平山輝男編集代表 明治書院  
日本語方言辞書——昭和・平成の生活語—— 藤原与一 東京堂出版  
全国方言辞典 東条操編 東京堂出版  
日本言語地図 国立国語研究所 大蔵省印刷局